

2. 子どもの事故予防活動状況

事業	内容
情報収集・提供	子どもの事故予防展示 センター1階アトリウムに事故予防情報を展示 ビデオ、パネルを媒介とした事故予防情報を展示
調査研究	平成14年度より子どもの事故サーベイランス事業を実施するため、子どもの事故予防研修会にて協力市町村を募集 サーベイランス事業計画書、事故経験チェックシート検討 数箇所協力市町村あり、調整中。
保健相談	保健関係機関からの相談 一般家族からの相談 保健医療相談、時間外電話相談での対応 実績については各相談実績に記載。
教育研修	子どもの事故予防対策事業実施要領に基づき、保健・保育関係機関の専門家向けの研修会を開催 子どもの事故予防研修会 「子どもの事故の現状と対策」 (資料2-1)
予防媒体の作成	子どもの事故予防啓発のため、子どもの視野体験めがねとチャイルドマウスを作成し、センター1階事故予防展示の来所者、事故予防教室参加者に配布した。

事業企画実施担当者の総括

子どもの不慮の事故は、国の統計では死亡は減少しているものの、外来受診数には全く変化はみられていない。県内市町村の事故予防活動状況を把握し、事故サーベイランス事業を実施していきながら事故予防の活動として有用性の高い事業を検討していきたいと考えている。

次年度は、当センター1階アトリウム内にモデルルームの完成するため、安全な家庭環境の具体例を提示し、楽しく学ぶ体験学習の場を提供していくとともに、一般家族向け事故予防教室の開催などを実施していきたい。

保健関係者向け事故予防研修会の開催、インターネットその他による情報提供の充実に向けて活動していく予定である。

研修内容 子どもの事故予防研修会報告

実施日時	平成14年1月30日(水)午後1時30分から4時30分まで
講師	緑園こどもクリニック 院長 山中 龍宏
講演主題	「子どもの事故の現状と対策」
参加者数	82名(保健所、市町村保健センター保健婦、子育て支援センターの保育士等)
講演会	<p>講演内容の要旨</p> <p>子どもの死因は1960年から0歳を除いて1歳～14歳まで事故である。事故予防に関する研究は全くない状況である。一昨年度健やか親子に21に少し入った。国がいくら目標を掲げても、地元で地道に活動しなくては目標達成は出来ない。</p> <p>子どもの事故は最大の健康問題であるという認識をもって取り組んでいくことが必要。</p> <p>子どもの事故：誤飲、窒息、溺水、転倒、転落等</p> <p>子どもの事故の特徴は新しい商品が出来ると事故が起きる：自販機でのアルコール飲料の販売、こんにゃくゼリーの窒息事故、ボタン電池の事故など。</p> <p>溺水の事故は8ヶ月から1歳半の子どもが風呂場で起こることが多い。</p> <p>統計データより、日本：乳児死亡率は世界で1番低い国だが、不慮の事故死亡率は高い。特に1～4歳の不慮の事故死亡率が高く、原因は溺水の事故。</p> <p>子どもの事故は目を離しても良い環境を作るしか防止は出来ない。事故は運不運で起こるわけではなく、原因があり対策たてられる健康問題として捉える。</p> <p>事故予防としてやってきた事例：子どもの誤飲防止(セーフティシリンダー)、溺れの事故、チャイルドシート</p> <p>これからの保健活動は評価できなくてはいけない。事故予防の評価指標は事故の発生数が減ることと重傷度が減ること以外にはない、事故予防を意識するようになっても、事故は減らない。事故を予防するためには、親に行動変容してもらうことが重要。事故を減らすような具体的な解決策を親達に受け入れてもらうことが重要。</p> <p>評価を実施するためには、きちんとした情報を継続的に得られるサーベイランスをやっていくことが必要。オーストラリアでは、医療機関でのサーベイランスが進んでいるが、医療システムが違うため、日本では医療機関でのサーベイランスは非常に難しく、唯一できるのは市町村だと考えている。評価のシステムを作って事業を実施していただきたい。</p> <p>(別添資料参照)</p>
	<p>主な質問と回答</p> <p>保育園で、事故マニュアルを作成して評価を実施予定、評価の注意する点は？</p> <p>⇒事故の調査を実施する際は医療機関にかかった胃湖に限定すること。事故の捉え方は人によって異なるので、一つの基準として考える</p> <p>保育園での介入事業は何を考えていけばよいか。</p> <p>⇒園への送迎は自転車が多いと思うので、子どものヘルメット着用など考えてはどうか。</p>
その他	事故サーベイランス事業について

研修者によるアンケート評価

アンケート回収数：68枚（回収率82.9%）

研修会名	子どもの事故予防研修会						
研修者の職種	保健婦 50人、保育士 11人、助産婦 2人、看護婦 1人、不明 1人 計 60人						
研修者の年齢分布	20歳代：26人、30歳代：10人、40歳代：11人、50歳代：2人 60歳代：1人、不明：10人						
研修者の性別	女性：68名 男性：0名（未記入：0枚）						
アンケート質問項目		1 よい	2	3	4	5	不明
	1. 研修全体のプログラムは？	29 (42.6)	21 (30.9)	13 (19.1)	0	0	5 (7.4)
	2. 講義の内容はよく理解できましたか？ 1よく理解した 2理解した 3ほぼ理解した 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	24 (35.3)	35 (51.5)	8 (11.8)	0	0	1 (1.5)
	3. 講義の内容は今後の各機関での事業の参考になりましたか？ 1非常に参考になった 2参考になった 3まあ参考になった 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	23 (33.8)	39 (57.4)	4 (5.9)	0	0	2 (2.9)
	4. 視聴覚教材の使用は、講義の理解に役立ちましたか	34 (50.0)	30 (44.1)	3 (4.4)	0	0	1 (1.5)
	5. 子どもの事故サーベイランス事業の説明はよく理解できましたか？回答項目2と同じ	8 (11.8)	29 (42.6)	27 (39.7)	1 (1.5)	0	2 (2.9)
	6. 子どもの事故予防事業に関するセンターへの要望、意見等がありましたらお聞かせください。 1.あり 5.なし	10 (14.7)	0	0	0	56 (82.4)	2 (2.9)
	7.施設の印象はいかがでしたか？	42 (61.8)	20 (29.4)	3 (4.4)	0	0	3 (4.4)
	8.「子どものための施設、子どもに優しいセンター」は実現しているとかんじられましたか？	20 (29.4)	25 (65.8)	19 (27.9)	0	0	4 (5.9)
	9.このアンケートは書きやすかったですか？	18 (26.5)	14 (20.6)	32 (47.1)	3 (4.4)	0	1 (1.5)
10.センターへの要望・意見がありましたらお聞かせください。 1.あり 5.なし	8 (11.8)	0	0	0	60 (88.2)	0	
<p>その他意見の概要</p> <p>講義はよく理解できたが、子育て支援センターで何が出来るか大きな問題。 事故サーベイランスの必要性がよく理解できた リーフレットを配布して説明を実施しているが、保護者への伝え方について見直そうと思った。 パパママ教室で、子どもの事故予防についてJAF、消防と協力してやっていく予定。</p>							